幼稚園・保育所の給食改善の実際

２０１８年１１月１８（日）９：３０～１６：３０

深刻になっている子どもたちの健康問題の背景に、食生活の問題があることを否定する人はいないでしょう。沖縄の久米島では、中学２年生の 52 パーセントに糖代謝異常がある。という信じられないニュースも流れてきました。しかし、これは遠い離島の特殊な話なのでしょうか。残念ですが特殊な事情とは言えなくなってきています。実際、小中学校で血液検査を実施する自治体が増えていることは、そのことの危機感の現れということができるでしょう。アレルギー疾患なども減る様子はありません。このような時代の中、幼稚園、保育園の「給食」の持つ意味は非常に大きくなっています。今回のセミナーでは、現代の子どもたちの「食」の何が問題なのか？どのように考えればいいのか？食生活の考え方から実践まで、そして保育所、幼稚園の給食の実際までお話させていただきます。

幼稚園、保育所の給食改善を考えている方々、日々、子どもと接している幼稚園教諭、保育士、栄養士、調理師の方々に参加していただきたいと考えています。

また、様々な情報に振り回されないためにも、子どもの食生活について勉強したいと考える医療関係者、教育関係者、一般の方にもお勧めします。

※希望される施設には個別給食改善の指導をします（裏面参照）

■講　師
幕内秀夫（Ｆ＆Ｈ研究所代表）

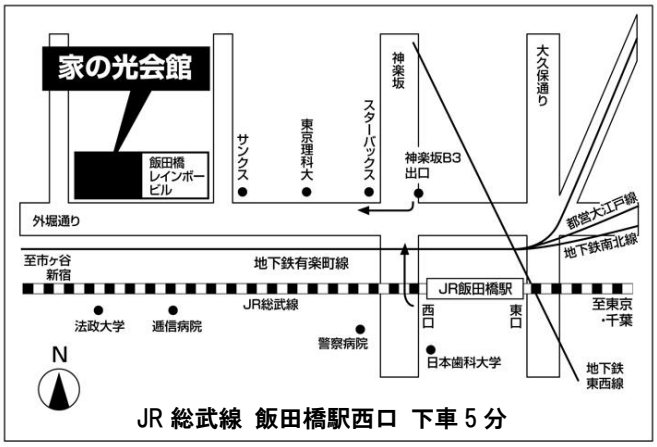
■会　場　**家の光会館２Ｆ２Ｃ会議室**
（東京都新宿区市谷船河原町 11）

■受講料　　10,000 円（税込み）
　学生　　7,000 円（税込み）

■定　員　４０名

■申込方法　申込書にご記入の上､FAX または、mail でお申込みください。定員の関係上、お申し込みいただいた方に、折り返しご連絡させていただきます。その後、１週間以内に下記銀行口座に受講料をお振込み下さい。

FAX：０４２－５０６－８６３７
mail：fandh-2@arion.ocn.ne.jp



■入金先　三菱東京 UFJ 銀行　国立（くにたち）支店　口座番号：（普）０７９５０５０
　　口座名：フーズアンドヘルス代表 幕内秀夫

＊キャンセルは、１週間前までにご連絡いただいた場合、お振込み金額の 50%から手数料を差し引いた額を返金いたします。それ以降のご返金はできません（代理出席可）。

■主　催　フーズ＆ヘルス研究所　　ＴＥＬ：０４２－５０６－８６３７

申込日　　年　　月　　日

ふりがな お名前	職業
ご住所　〒	振込口座名義名
TEL　　（　　）	FAX　　（　　）
ＭＡＩＬ	

幕内秀夫プロフィール

Ｆ＆Ｈ研究所主宰。1953 年茨城県生まれ。東京農業大学農学部卒業。専門学校の講師を務めるが既存の栄養教育に疑問を持ち退職。以後、伝統食と健康の研究を行う。プロスポーツ選手の個人指導、保育所、幼稚園の給食改善、企業の社員食堂の改革などを行う。病院、診療所などの医療機関で約 30 年間食事指導を担当する。主な著書：『粗食のすすめ』、『ドラッグ食』、『じょうぶな子どもを作る基本食』など多数。学校給食と子どもの健康を考える会代表。

給食改善の個別指導について

個別指導を希望する施設には給食改善のアドバイスをさせていただきます。費用などははいただきません。ただし、以下の条件を満たす場合に限らせていただきます。施設長（園長など）、給食献立作成者(栄養士・調理師など)が同時に本セミナーを受講すること。本気で給食改善に取り組む意志があること。メールでの指導が中心になります。メールでの交信が可能なこと。その他、詳細はセミナー時にお知らせさせていただきます。

タイムスケジュール

９：１０	受付開始
９：３０～１２：００	「今、食生活の何が問題なのか？」
１３：００～１６：００	「食生活の基本と給食改善の実際」
１６：００～１６：３０	「質疑応答」

みらいのタネ

①

久米島の挑戦 ㊤

中２の52％ 糖代謝異常

糖代謝異常のある子が中学2年生で52％―。

久米島町福祉課の栄養士、平田淳子さん(53)は数字を見たとき、ショックで座り込んでしまった。

町が2010年1～3月、小学5年生から高校3年生を対象に初めて実施した「子ども健診」の血液検査。糖尿病診断の指標となるヘモグロビンA1cが正常値を超える子が、小学5年生でも30％に上った。島は肥満の子の割合も高く、小学校や高校で全国の2倍を超える学年もある。

糖代謝の異常は血管が傷み始めていることを意味する。「このまま放置すれば血管がボロボロになって、10年後には糖尿病になるかもしれない。どうにかしなければ」

学校を回ったが最初はなかなか理解されなかった。各学校、クラスごとに結果を説明して回った。小児科医、養護教諭ら徐々に協力の輪が広がり12年度、「子ども健康プロジェクト」を立ち上げた。

（社会部・高崎園子）

大人と合わせ鏡の子どもの生活習慣と健康。県内では働き盛りの生活習慣病が問題になっているが、子どもへの連鎖もみられる。将来に向け、大人も子どもも健康な島をどうつくるか。現状と課題、各地で始まっている取り組みを追う。

12面に続く

（『沖縄タイムス』より）

小中学校でこのような数値が出ているということは、幼児期からの生活習慣、中でも食生活の影響がでていると考えるべきでしょう。成人の糖尿病増加の問題が指摘されていますが、もはや小中学生の問題になりつつあります。

幼稚園、保育所の給食は子どもたちに対する直接な影響だけではなく、家庭に及ぼす教育的意味も非常に大きくなっています。